

令和 4 年度

看護管理学／看護体系・機能学分野
基礎看護学教室

年報

2022 年 4 月 1 日—2023 年 3 月 31 日

目次

巻頭言	3
主な出来事	4
教室員	5
学部講義	7
看護学概論	7
基礎看護学Ⅰ	8
看護支援技術論	9
基礎看護学実習	10
看護管理学	13
看護管理学実習	14
基礎看護学Ⅱ（選択科目）	16
看護学概論Ⅱ（駒場：1・2年生対象）	17
大学院講義	18
看護管理学特論Ⅰ	18
抄読論文	19
看護管理学/看護体系・機能学ゼミ	20
学位論文	22
博士論文	22
修士論文	22
教員の活動	23
研究室業績（2021年1月～2022年3月）	25
原著論文・研究論文	25
総説・報告	26
学会発表	26
研究助成など	27
教室の出来事	29

巻頭言

新たなスタートの1年を振り返って

2022年度は、看護管理学／看護体系・機能学分野（基礎看護学教室）にとってひとつのスタートの年でした。前教室主任の武村雪絵准教授が2022年3月末をもってご退職され、2022年4月1日付で私が准教授を拝命しました。市川奈央子助教、木田亮平助教、磯部環助教の3名の教員、特任研究員2名、大学院生1名、事務職員1名に大きく支えられながら1年間を過ごすことができたことに心から感謝しています。4月に東京大学医学部附属病院看護部長になられた後も継続的に研究室をご支援くださいました武村雪絵先生、学生教育にご協力くださいました非常勤講師の先生方、当教室の教育・研究活動にご支援いただきましたすべての皆さまに御礼申し上げます。

研究では、教員や研究員は各自がこれまで行ってきたそれぞれの研究課題を継続しながらも、ゼミを通してお互いの知識や経験を共有する機会を持つことができました。教員・研究員の全員が若手研究者という中で、看護学研究者として共通する視点と各自の専門性からの異なる視点の両方を理解し、さまざまな研究手法を知ることは、一人一人のこれからの研究の幅を広げていくことに繋がると信じています。そして、大学院生1名が博士論文の審査で合格となったことを心から嬉しく思います。今後は、研究室としての研究プロジェクトをスタートさせることが課題であり、引き続き教員員の力を合わせて研究活動に取り組んでまいります。

教育では、基礎看護学教室は、看護学概論（2年生）、基礎看護学Ⅰ（2年生）、看護支援技術論（3年生）、基礎看護学実習（3年生）、看護管理学（4年生）、看護管理学実習（4年生）、基礎看護学Ⅱ（4年生）を担当しています。学生が初めて看護を学ぶ場面に接することができるのは、教員にとっても改めて看護の魅力に触れることができる機会でもありました。看護科学専修、健康総合科学科、健康科学・看護学専攻の教員として、学生教育に貢献できるよう努めてまいりたいと思います。

2023年3月末をもって市川奈央子助教が退職し、杏林大学講師に着任されました。また、事務職員の小川繁子さんが退職されました。長年に渡って当教室の運営を支えてくださったお二人に感謝するとともに、新たな就職先へ羽ばたいた研究員・学生にも心からのエールを送ります。

2023年度も引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

令和5年4月13日

准教授 北村言

主な出来事

2022年4月

准教授1名着任、教室新体制

特任研究員2名着任

2023年1月

博士課程学生1名修士論文提出

2022年3月

助教1名退任

特任研究員1名退任

教室事務員1名退職

博士課程学生1名満期退学

教室員

准教授

北村 言

助教

市川奈央子

木田 亮平

磯部 環

特任研究員

石井 馨子

高橋 好江

非常勤講師

井出恵伊子 (東京ベイ・浦安市川医療センター 経営企画室 室長)

島田 陽子 (元厚生労働省医政局看護課 看護課長)

柳橋 礼子 (元常磐大学 准教授)

事務員

小川 繁子

客員研究員

國江 慶子

佐伯 昌俊

寿々木剛志

西川久仁子

船越 千佳

渡邊龍之介

大学院生

博士課程 3年

井上 真帆

学部講義

基礎看護学教室は、看護学概論、基礎看護学Ⅰ、看護支援技術論、基礎看護学実習、看護管理学・看護管理学実習、基礎看護学Ⅱ、看護学概論（駒場）を担当した。

看護学概論

講義題目 ／Subtitle	看護学概論	
授業の目標、概要 ／Course Objectives/ Overview	看護の概要を理解し、看護の基盤となる価値観（人間観、倫理観、生命／生活／健康観）を学ぶことを目的とする。 看護を学ぶ上で基礎となる看護の構成概念（パラダイム）や機能を理解し、看護の諸理論、看護の対象や看護の実際について講義や討議を通じて学ぶ。 最終回は医学科・薬学部との学生との合同授業（Interprofessional Education: IPE）として、多様な価値観に触れ、自己の価値観を相対化し、自分と異なる価値観への受容性を高める。	
授業のキーワード ／Keywords	日本語用 ／Japanese	看護学、看護の概念、看護の機能、看護理論、看護過程
	英語用 ／English	nursing, concepts of nursing, functions of nursing, nursing theory, nursing
授業計画 ／Schedule	10月4日(火) 看護とは 10月11日(火) 看護の提供者と対象の理解 10月18日(火) 看護を語る 10月25日(火) 看護過程 11月1日(火) 看護における倫理 11月8日(火) 多職種連携（IPE）医学科・薬学部との合同授業…変更可能性あり 11月15日(火) 看護理論発表 ※非常勤講師の都合により、スケジュールが変更する可能性がある。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。	
授業の方法 ／Teaching Methods	講義、グループワーク、ディスカッション	
成績評価方法 ／Grads Evaluation	出席状況と課題発表、レポートにより評価を行う。	
教科書 ／Textbooks	各講義で資料を配布する	
参考書 ／References	看護学概論 - 基礎看護学<1>（医学書院） 看護学概論 - 看護迫及へのアプローチ 第4版（医歯薬出版株式会社）	
履修上の注意 ／Notes on Taking the Course	出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。 また、正当な理由なき遅刻及び退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。	
その他 ／Others	講義スケジュールは、講師の都合などにより変更になる場合がある。 初回（10月4日）はオリエンテーションおよび第7回看護理論発表会のためのグループワーク決めを行うため、原則出席すること。	
実務経験と授業科目の関連性 ／Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学を中心とする看護学概論について講義をする。また、現在臨床で看護実践を行なっている看護職者をゲスト講師に迎え、その経験を活かして講義をする。	

※非常勤講師：鈴木 博章（東京大学医学部附属病院 管理支援室 教育・研究支援）
大崎菜津子（東京大学医学部附属病院 管理支援室 教育・研究支援）

基礎看護学 I

講義題目 ／Subtitle	基礎看護学 I
授業の目標、概要 ／Course Objectives/ Overview	人を理解し援助するための知識・技術を学ぶことを目的とする。 患者に適切なケアを提供するための思考過程（看護過程）、患者を知る技術（問診、バイタルサイン）、患者をケアする技術（食事）、患者の環境を整える技術（感染管理、シーツ交換、環境整備）について、講義や演習を通して身につける。 また、病院見学実習を通して、患者の療養環境や看護の実際を見学し理解を深める。
授業のキーワード ／Keywords	日本語用 ／Japanese 看護、看護過程、看護方法論、看護技術 英語用 ／English nursing, nursing process, methodology of nursing, nursing skill
授業計画 ／Schedule	12月1日(木) 患者に適切なケアを提供するための思考過程：看護過程 12月8日(木) 安全な環境を整える技術：感染管理（東大病院 感染管理認定看護師） 12月15日(木) 患者から聞く技術：問診 12月22日(木) 患者を診る技術：バイタルサイン 1月5日(木) 早期体験実習（東大病院） 1月12日(木) 患者の回復力を妨げない技術：療養環境 1月25日(木) 患者の回復力を支援する技術：食事および試験 ※食事介助の演習を行うのでアレルギーがある学生は事前に相談すること。その他準備する物品は事前に通知する。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
授業の方法 ／Teaching Methods	講義及び演習、実習を行う。 初回は医学部3号館2階S201、2回目以降は医学部5号館2階201で行う。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
成績評価方法 ／Grads Evaluation	出席状況と課題とレポートおよび試験により評価を行う。
教科書 ／Textbooks	各講義で適宜資料を配布する。
参考書 ／References	ナーシングスキル(使用できるライセンスを付与する) 基礎看護技術 I・II(医学書院) 基礎看護技術 I・II(メヂカルフレンド社)
履修上の注意 ／Notes on Taking the Course	本科目は看護科学専修の必修科目である。 看護学概論（A1ターム）の単位取得見込みを履修条件とする。 演習中心に行うため、正当な理由なき遅刻、欠席は認められない。 また、正当な理由なき遅刻および退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。 *第2回「感染管理」の履修をしていない者は、第5回「早期体験実習」への参加は認められない。 *第7回「食事」終了後、筆記試験を行う。
その他 ／Others	授業スケジュールは講師の都合により変更になる場合がある。 演習を行うため、動きやすい服装（ハイヒール、サンダル、スカートは避けること）で出席すること。
実務経験と授業科目の関連性 ／Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学について講義・演習を行う。

※非常勤講師：三橋 美野（東京大学医学部附属病院 10階北病棟 主任副看護師長）

看護支援技術論

講義題目 /Subtitle	看護支援技術論	
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護支援技術論では、人を理解し援助するための知識・技術を学ぶことを目的としている。具体的には、フィジカルアセスメントの技術と療養生活における基本的な援助技術を習得する。	
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese	看護,基礎看護技術,フィジカルアセスメント
	英語用 /English	nursing, basic nursing skills
授業計画 /Schedule	7月4日(月) ・看護過程 7月6日(水) ・フィジカルアセスメントの基礎 ・フィジカルアセスメント(呼吸系、循環系、消化系、泌尿器系) 7月8日(金) ・フィジカルアセスメント(運動系・神経系) ・移動・移乗・ポジショニング 7月11日(月) ・身体の清潔(清拭、更衣、洗髪、足浴) 7月13日(水) ・排泄ケア(導尿、床上排泄、陰部洗浄、おむつ交換) 7月14日(木) ・技術テスト ・基礎看護学実習オリエンテーション	
授業の方法 /Teaching Methods	講義および演習	
成績評価方法 /Grads Evaluation	出席、演習への取り組み、技術テストにより評価を行う。	
教科書 /Textbooks	各講義で資料を配布する	
参考書 /References	ナーシングスキル(通年使用できるライセンスを付与する) フィジカルアセスメント完全ガイド(学研) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メヂカルフレンド社)	
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	履修条件：看護学概論、基礎看護学Ⅰ、ヘルスコミュニケーション学、病態疾患論、疾病論、免疫と生態防御、救急処置の全課題を終了し、単位を取得(見込み)していること。 演習中心に行うため、正当な理由なき遅刻、欠席は認められない。 演習の進行状況によっては、5限まで延長する可能性がある。 ※感染症対策の状況によってスケジュール・開催方法が変更になる可能性がある。	
その他 /Others	演習を行うため、動きやすい服装(ハイヒール・サンダル・スカートは避ける)で講義に出席すること。 秒針のある時計、聴診器を持参すること。 技術テストは、看護学実習用ユニフォームと靴を着用して行う。	
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が看護技術について講義・演習を行う。	

基礎看護学実習

講義題目 /Subtitle	基礎看護学実習
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	病棟実習を行う。 病棟実習では、入院患者を受け持ち、看護過程の展開および看護ケアを実践する。それらを通し、病院において療養生活をしている患者を理解し、実践での看護過程の展開や基本的看護技術を臨床現場において適用できることを目標とする。
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese 看護, コミュニケーション, 基礎看護技術, 臨床実習 英語用 /English nursing, basic nursing skills, communication, practicum, hospital
授業計画 /Schedule	7月15日(金)～7月28日(木) オリエンテーション・集中演習・病棟実習 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
授業の方法 /Teaching Methods	東京大学医学部附属病院で臨床実習を行う。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
成績評価方法 /Grads Evaluation	出席状況、実習への取り組み、レポートにより評価する。
教科書 /Textbooks	なし
参考書 /References	ナーシングスキル(通年使用できるライセンスを付与する) エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図(中央法規) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メヂカルフレンド社)
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	履修条件：看護支援技術論の単位取得予定者で看護科学専修の学生。
その他 /Others	詳細は、実習前オリエンテーションにて通知する。基礎看護学実習前に配布する看護学実習要綱を参照。
授業使用言語 /Language Used in Class	日本語
実務経験のある教員による授業科目 /Course conducted by instructor with practical work experience	該当科目である / Applicable course
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が臨床実習の支援等を行う。

1. 目的

病院において療養生活をしている患者を理解し、基本的看護技術を臨床現場において適用するとともに、看護過程について実践を通して学ぶ。

2. 目標

- (1) 病院という場、看護師の役割および病院での療養生活の概要についての理解を深める。
- (2) 担当患者の状態に応じて、適切な患者-看護師関係を築くことができる。
- (3) 健康障がいがある患者の日常生活にどのように影響しているかを観察し、考えることができる。
- (4) 担当患者の状態に応じて、日常生活の援助を実践できる。
- (5) 担当患者の状態をアセスメントし、看護上の問題および目標を明らかにすることができる。

3. 実習施設

東京大学医学部附属病院 (A棟14階北病棟)

4. 実習期間

2022年7月15日(金)～2022年7月28日(木)

5. 実習スケジュール

	7月11日(月)	7月12日(火)	7月13日(水)	7月14日(木)	7月15日(金)
午前	※学内演習				・全体オリエンテーション
午後	※学内演習				・病院オリエンテーション ・病棟挨拶、情報収集 ・教員同意書取得
		7月19日(火)	7月20日(水)	7月21日(木)	7月22日(金)
午前		・病棟オリエンテーション ・患者挨拶、情報収集	・病棟実習	・病棟実習	・病棟実習
午後		・病棟実習	・病棟実習	・中間カンファレンス	・病棟実習
	7月25日(月)	7月26日(火)	7月27日(水)	7月28日(木)	
午前	・病棟実習	・病棟実習	・病棟実習 (病棟最終日)	・実習全体振り返り	
午後	・病棟実習	・病棟実習	14:00～15:00 病棟実習全体発表会	・面談	

※ 背景が灰色の部分は病棟実習を行う日程。

注1：発表時間は35分間（各学生の発表7分、師長・実習指導者からの講評、教員・TAからの講評を含む）。

場所は入院棟B 第1会議室で行う。他教室の先生方も発表の見学に来られます。

6. 実習内容及び進め方

- ・ 病棟での実習時間は8:00～16:00とし、昼食休憩を1時間とする。
- ・ 各学生が一人の患者を受け持つ。
- ・ 実習指導者及び担当教員の指導を受けながら、日常生活援助を病棟での看護に組み入れて実践する。
- ・ 日常生活援助の計画については、日々の実習記録に記載し、毎日の実習開始時に実習指導者及び担当教員の指導を受ける。
- ・ 患者についての情報収集・アセスメントを行い、指導の下に患者の全体像を理解するとともに、看護問題を明確化し看護目標を立てる。
- ・ 看護目標にもとづき、看護計画を立案、実施・評価する。
- ・ 毎日の実習終了時に30分程度のショートカンファレンスを行い、その日に学んだことや、看護活動を展開する上で検討を要することについて実習指導者及び教員とともに話し合う。
- ・ 実習期間中の学内での学習には医学部3号館S201が使用可能である。
- ・ 7月15日(金)13時より安全対策に関する講義を受ける。場所：管理研究棟3階 看護部研修室
- ・ 7月21日(木)午後は中間カンファレンスを行い、患者の全体像の整理、関連図の素案、看護計画立案などについて実習指導者及び教員とともに話し合う(20～30分/人)。学生は自身の受け持ち患者の看護を優先しつつ、可能であれば他の学生のカンファレンスにも同席する。指導を受けた内容は学生間で共有する。
- ・ 7月25日(月)午前に週末の様子を踏まえ、実習指導者及び教員とともに看護計画の修正を行う。

7. 病棟実習全体発表会 場所：外来カンファレンス室

(1) 発表内容

- ・ 受け持ち患者を紹介するとともに、実施したケアとその評価や患者との関わりの変化など、テーマを決めて発表する。実習の感想を含めても良い。

(2) 発表時間

- ・ 学生 1 人あたり 7 分程度

8. 評価方法

- ・ 出席、実習内容および実習記録、レポートによって総合的に評価する。

9. 提出物について

(1) 実習記録

①毎日提出：「1日の行動計画」、「温度版」

②実習中に提出

- ・ 「基礎情報」、「薬一覧」：7月20日（水）の実習開始時
- ・ 「関連図」、「問題・課題リスト」：7月21日（木）の実習開始時
- ・ 「看護計画」：7月22日（木）の実習開始時

※記録ファイル・レポートには学生証番号、名前を記載する。

※ ① ② を 必 要 時 修 正 加 筆 し 、 実 習 終 了 後 に 提 出 す る 。

提出期限：2022年7月28日（木）17:00

提出先：教員に直接提出

(2) レポート課題

臨床実習で学んだこと（A4サイズ、2頁以内、表紙不要）

期限：2022年8月4日（木）17:00

提出先：ITC-LMS

※レポートには学生証番号、名前を記載する。提出するファイル形式は PDF、ファイル名は「氏名_基礎看護学実習レポート」とすること。

10. その他

(1) 全出席を原則、遅刻は厳禁とする。やむを得ない事情で欠席する場合は、指導教員に速やかに連絡

絡を取ること。

(2) 実習中は病院内の更衣室を借用し、実習衣、ナースシューズを着用する。ロッカーの鍵を借用するため紛失しないよう管理し、実習終了後、教員に返却すること。

(3) 感染対策については別途指導する。

看護管理学

講義題目 /Subtitle	看護管理学	
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護管理学の概要と看護管理実践に必要な基礎的知識を習得する。さらに、看護管理の視点から看護の現場に起こる現象と、諸課題を理解し、それらに対し看護管理からの視点で対応策を検討できることを目的とする。具体的には、看護管理学概論、組織と人の管理、看護を提供する仕組み、キャリア、看護に関する政策、情報の管理、医療安全、医療や看護の質保証などについて学ぶ。	
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese	看護管理、医療の質
	英語用 /English	nursing management, health care quality
授業計画 /Schedule	4月4日(月) 看護管理の基礎知識 4月11日(月) 組織と人/看護提供システム(看護サービス管理)/資源の管理 4月18日(月) 看護情報の管理 4月25日(月) 看護における経営管理 5月9日(月) 質の管理・医療安全 5月16日(月) 看護に関する政策動向・政策過程 5月23日(月) キャリアと生涯学習/セルフマネジメント/試験	
授業の方法 /Teaching Methods	講義およびディスカッション	
成績評価方法 /Grads Evaluation	出席および課題、ディスカッションへの参加、試験によりに評価する。	
教科書 /Textbooks	各講義で資料を配布する。	
参考書 /References	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理(メディカ出版)	
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。 正当な理由なき遅刻及び退下が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。 ※感染症対策の状況によって、スケジュール・開催方法が変更になる可能性がある。	
その他 /Others	感染症対策の状況によって、授業スケジュールや開催方法が変更になる場合があるので注意すること。	
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護やマネジメントの実務経験を有する複数の教員が看護管理について講義を行う。	

※非常勤講師：村岡 亜紀（東京大学医学部附属病院 臓器移植医療センター 看護師長）
井出恵伊子（東京ベイ・浦安市川医療センター 経営企画室 室長）
柳橋 礼子（元常磐大学看護学部 准教授）
島田 陽子（元厚生労働省 医政局看護課 課長）

看護管理学実習

講義題目 ／Subtitle	看護管理学実習	
授業の目標、概要 ／Course Objectives/ Overview	看護管理についての講義をふまえたうえで、病院管理・看護管理の実際について、管理者との話し合いを通して看護管理の視点を養う。 具体的には、組織理念と組織運営、ひとの管理、教育・キャリア発達支援、医療安全・質管理、情報共有と情報管理、看護提供システムに着眼し学ぶ。	
授業のキーワード ／Keywords	日本語用 ／Japanese	看護管理, 病院, 医療安全
	英語用 ／English	nursing management, hospital, patient safety
授業計画 ／Schedule	6月3日(金)、6月10日(金)、6月17日(金)、6月24日(金) 病院実習 7月1日(金) まとめの会(学内) ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。	
授業の方法 ／Teaching Methods	東京大学医学部附属病院、東京大学医科学研究所附属病院で実習を行う。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。	
成績評価方法 ／Grads Evaluation	出席およびレポート、発表により評価する。	
教科書 ／Textbooks	なし	
参考書 ／References	資料は別途配布する。適宜「看護管理学」で使用した資料や参考書を参考にすること。	
履修上の注意 ／Notes on Taking the Course	履修条件：看護科学専修の学生、S1 タームの「看護管理学」の単位取得見込みであること。 原則として全日程の出席が必要である。	
その他 ／Others	詳細は、実習前オリエンテーションにて通知する。 看護学実習要綱も参照すること。 実習スケジュールは、実習施設の都合により変更になる場合がある。	
実務経験と授業科目の関連性 ／Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学・看護管理学に関連する内容について講義および学生との討議を行う。	

【目的】

病院管理・看護管理の実際について見学実習し、管理者との話し合いなどを通じて、病院管理・看護管理の諸課題への視点を養う。

【目標】

講義やこれまでの看護学実習をふまえ、よりよい医療・看護を提供していくための組織運営・管理の実際を見学実習する。

【実習全体スケジュール】

6月3日(金) 東京大学医学部附属病院 (1日目)	
8:45～15:20	看護部長からの講義、病院内の各部門見学
6月10日(金) 午前：自習 午後：東大医科学研究所附属病院	
9:00～11:30	東京大学医科学研究所附属病院についての事前学習 看護管理学の講義を踏まえたうえで、公開情報や文献を参考に組織の概要、看護教育、医療安全・質管理、労務管理を調べ、実習で学びたいことをまとめ、提出する。 提出期間：6月10日(金) 10:00～11:30 提出先：ITC-LMS 上 ※ファイル形式はPDF、ファイル名は「氏名_医科研事前学習」とすること
12:40	集合(場所：医科研病院 正門前)
13:00～16:00	東大医科学研究所附属病院 実習

	看護部長からの講義、医科研病院の看護教育、情報管理、医療安全対策に関する講義とディスカッション
6月17日(金) 東京大学医学部附属病院 (2日目)	
8:30~16:00	部署での看護師長業務の見学
6月24日(金) 東京大学医学部附属病院 (3日目)	
8:00~15:00	部署での総リーダー業務の見学、実習まとめの会
7月1日(金) 午前：東京大学医学部附属病院 (4日目) 午後：看護管理学実習のまとめ	
9:45~10:55	部門見学
~14:00	発表準備 (場所：医学部3号館 N201 または集会室) 更衣後、各自昼休みをとった後、発表準備を行う
14:00~15:20	<p>全体のまとめ、発表 (場所：医学部3号館 N201)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護管理実習全体を通して、①②の学んだこと・考えたことを発表 ※スライドなどの資料を作成して、発表すること ① 看護管理学実習の着眼点として挙げた「組織理念と組織運営」「ひとの管理」「教育・キャリア発達支援」「医療安全・質管理」「情報共有と情報管理」「看護提供システム」のうち、いくつかのテーマについて看護管理学の講義をふまえ、実際に見学した内容を含めてまとめる。 ② 看護管理の役割・機能を考える。 ● 他学生の発表を聞いてディスカッションを行い、互いの考えを共有する ・学生1名あたり発表8分+質疑応答・ディスカッション5分 ・教員からの講評
15:20~16:00	<p>レポート作成</p> <p>※他者の発表から得た学びも活かし、レポートを作成する</p>

【レポートについて】

- (1) 東大医科研病院における実習で学んだこと及び感想 (A4サイズ1枚程度・様式自由)
 - 提出期限：6月17日(金) 17時
 - 提出先：ITC-LMS
 - ※ファイル形式はPDF、ファイル名「氏名_医科研病院レポート」とすること
- (2) 東大病院における実習で学んだこと及び感想 (様式に沿って作成)
 - 提出期限：7月4日(月) 17時
 - 提出先：ITC-LMS
 - ※ファイル形式はPDF、ファイル名「氏名_東大病院レポート」とすること
- (3) 実習要綱 P6「3. 看護管理学実習の着眼点」の分類を使用し、講義・実習から学んだこと (A4サイズ2枚程度)
 - 提出期限：7月4日(月) 17時
 - 提出先：ITC-LMS
 - ※ファイル形式はPDF、ファイル名「氏名_看護管理学実習レポート」とすること

基礎看護学Ⅱ（選択科目）

講義題目 ／Subtitle	基礎看護学Ⅱ	
授業の目標、概要 ／Course Objectives/ Overview	基礎看護学および看護管理学に関するトピックスを学ぶことを通じて、看護実践や看護組織運営に必要な知識や視点を習得する。	
授業のキーワード ／Keywords	日本語用 ／Japanese	基礎看護、看護管理
	英語用 ／English	Theory and methodology of nursing , Nursing management
授業計画 ／Schedule	4月6日（水）、4月13日（水）4月20日（水）、4月27日（水）、5月11日（水）、5月18日（水）、5月25日（水） ※講師の都合により時限が変更になる場合がある。	
授業の方法 ／Teaching Methods	講義およびディスカッション	
成績評価方法 ／Grads Evaluation	出席および課題、ディスカッションへの参加によりに評価する。	
教科書 ／Textbooks	指定の教科書はない。	
参考書 ／References	資料の配布、参考図書を紹介を行う。	
履修上の注意 ／Notes on Taking the Course	履修条件：「基礎看護学Ⅰ」の単位を取得済みであること。 出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。 正当な理由なき遅刻及び退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。 ※感染症対策の状況によって、スケジュール・開催方法が変更になる可能性がある。	
その他 ／Others	受講者数により講義内容を一部変更したり、開講時間を変更する場合がある。 受講を検討している場合は事前に（初回授業日前までに）連絡をすること。	
授業使用言語 ／Language Used in Class	日本語	
実務経験のある教員による授業科目 ／Course conducted by instructor with practical work experience	該当科目である／Applicable course	
実務経験と授業科目の関連性 ／Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学・看護管理学に関連する内容について講義および学生との討議を行う。	

大学院講義

看護管理学／看護体系・機能学分野は、看護管理学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅱ、看護体系・機能学Ⅰ、看護管理学・看護体系機能学ゼミを担当している。今年度は看護体系・機能学特論Ⅰ、看護管理学・看護体系機能学ゼミを開講した。

看護体系・機能学特論Ⅰ

講義題目 ／Subtitle	アドバンスドナースに関連する文献レビュー	
授業の目標、概要 ／Course Objectives/ Overview	アドバンスドナースに関連する文献を読み、制度、効果、課題等について理解を深めるディスカッションを行う。	
授業のキーワード ／Keywords	日本語用 ／Japanese	アドバンスドナース、レビュー
	英語用 ／English	advanced nurse, review
授業計画 ／Schedule	日程：4/7、4/14、4/21、4/28、5/12、5/19、5/26（全7回、いずれも木曜 9:00-12:10）	
授業の方法 ／Teaching Methods	課題を分担し、発表を行いディスカッションにより理解を深める。	
成績評価方法 ／Grads Evaluation	出席、課題、ディスカッションへの参加に基づき評価する。	
教科書 ／Textbooks	特になし。	
参考書 ／References	特になし。	
履修上の注意 ／Notes on Taking the Course	3回以上の欠席は単位取得不可とする。	
その他 ／Others	受講希望者は4/6（水）までに連絡の上、初回に出席すること。	
授業使用言語 ／Language Used in Class	日本語	

※2022年度の受講者はなし（聴講生1名）。

看護管理学/看護体系・機能学ゼミ

令和3年4月6日～7月13日 毎週火曜日 9:00-12:00

令和3年9月7日～令和4年3月15日 毎週火曜日 9:00-12:00

令和3年9月29日～11月17日 毎週火曜日 13:00-15:00

(令和3年10月5～11月16日 毎週火曜日 13:00-15:10, 予演は日時を固定せず開催)

4月12日	オリエンテーション	
4月19日	井上 真帆	研究報告
	石井 馨子	研究報告
4月26日	高橋 好江	研究報告
	石井 馨子	論文抄読
5月10日	北村 言	研究報告
	木田 亮平	研究報告
5月17日	市川奈央子	研究報告
	磯部 環	研究報告
5月24日	井上 真帆	研究報告
	高橋 好江	論文抄読
5月31日	石井 馨子	研究報告
	高橋 好江	研究報告
6月7日	北村 言	研究報告
	市川奈央子	論文抄読
6月14日	井上 真帆	研究報告
	木田 亮平	研究報告
6月21日	市川奈央子	研究報告
	井上 真帆	論文抄読
6月28日	磯部 環	研究報告
	北村 言	特別講義
7月5日	井上 真帆	研究報告
		学会予演
7月12日		学会予演
8月23日	木田 亮平	研究報告
	石井 馨子	研究報告
8月30日	高橋 好江	研究報告
	北村 言	研究報告
9月6日	井上 真帆	研究報告
9月13日	石井 馨子	研究報告
	高橋好江	研究報告
9月20日	磯部 環	研究報告
	市川奈央子	研究報告
10月4日	井上 真帆	研究報告
10月11日	木田 亮平	論文抄読
	石井 馨子	特別講義
10月18日	市川奈央子	特別講義
	高橋 好江	研究報告
10月25日	磯部 環	論文抄読
	木田 亮平	研究報告

11月8日	井上 真帆	研究報告
11月15日	北村 言	論文抄読
	石井 馨子	研究報告
11月22日	高橋 好江	特別講義
	磯部 環	研究報告
11月29日	北村 言	研究報告
	市川奈央子	研究報告
12月6日	磯部 環	特別講義
	木田 亮平	研究報告
12月13日	石井 馨子	論文抄読
	高橋 好江	研究報告
12月20日	木田 亮平	特別講義
1月10日	井上 真帆	研究報告
1月24日	井上真帆	博士論文発表会予演
2月7日	北村 言	エコーハンズオンセミナー
2月14日	石井 馨子	研究報告
	木田 亮平	研究報告
2月21日	石井 馨子	研究報告
	高橋 好江	研究報告
2月28日	北村 言	研究報告
	市川奈央子	研究報告

学位論文

博士論文

井上真帆. 流行初期に COVID-19 患者看護に従事した看護師が職業上の成長を認識するプロセスと影響要因：複線経路・等至性モデルを用いた質的研究（合格）

教員の活動

北村言

社会活動

- 日本褥瘡学会 評議員（通年）
- 日本褥瘡学会 実態調査委員会委員（通年）
- 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 社会保険委員会委員（通年）
- 看護理工学会 編集委員会査読委員（通年）
- 看護理工学会 次世代委員会委員（2022.02 から）
- 日本看護科学学会 和文誌専任査読委員（通年）
- 日本看護科学学会 「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」SR チームメンバー
- 日本創傷治癒学会 評議員（2022.11.19 から）
- EAFONS 運営委員

市川奈央子

社会活動

- 東京都ナースプラザ研修「看護管理の基本」ファシリテーター. 2022.8.5, 2023.3.9
- 第26回東アジア看護学研究者フォーラム（EAFONS）査読委員、実行委員

木田亮平

社会活動

- 日本医療・病院管理学会事業委員会
- 東京都ナースプラザ「看護管理の基本」ファシリテーター
- 東京都看護協会「研究論文の書き方」講師
- 東京都立病院機構東京都立多摩総合医療センター「看護研究」「レベルⅢ事例研究」講師
- 第26回東アジア看護学研究者フォーラム（EAFONS）査読委員、実行委員

磯部環

社会活動

- 東京都ナースプラザ研修「看護管理の基本」ファシリテーター. 2022.8.5, 2023.3.9
- 第26回東アジア看護学研究者フォーラム（EAFONS）査読委員、実行委員

研究室業績（2021年1月～2022年3月）

原著論文・研究論文

1. Kida R. & Takemura Y. Working conditions and fatigue in Japanese shift work nurses: A cross-sectional survey. *Asian Nursing Research*. 2022; 16(2), 80-86.
2. 渡邊龍之介, 木田亮平, 武村雪絵. 労働状況および偏りのある勤務割り振り, 勤務日・休暇のコントロール感不足とバーンアウトおよび身体愁訴との関連 —交代制勤務に従事する看護職を対象としたオンライン調査—. *日本看護科学学会誌*. 2022;42, 63-71
3. Kida R, Fujinami K, Yumoto Y, Togari T, and Ogata Y. The association between burnout and multiple roles of work and family among female Japanese nurses: A cross-sectional study. *Industrial Health*. (in press)
4. Susuki T, Kida R, Takemura Y, Ichikawa N, Kunie K, & Koyanagi H. Work-related communication mediates the relationship between perceived diversity climate and psychological empowerment among part-time nurses: a cross-sectional study. *Journal of Nursing Management*, 2022; 30(2)
5. Sawada S, Takemura Y, Isobe T, Koyanagi H, & Kida R. Perceived Impact of nurse turnover on the organization: A Delphi study on managers of nursing. *Journal of Nursing Management*. 2022. 30(7)
6. Kida R, Takemura Y, Inoue M, Ichikawa N & Koyanagi H. Nursing Management for the Temporary Lodging Facilities in Japan in the Early Stages of the COVID-19 Pandemic: A Multiple-Case Study. *Japan Journal of Nursing Science*. 20(1)
7. Sugama J, Ishibasi M, Ota E, Kamakura Y, Saitoh E, Sanada H, Nakayama T, Nomura T, Yamada M, Nakagami G, Sato N, Shibata S, Hase T, Fukada J, Miki T, Arita M, Urai T, Okawa Y, Kitamura A, Dai M, Takahashi T, Tamai N, Tobita I, Noguchi H, Matsumoto M, Miura Y, Mukai K, Mugita Y, Yoshida M, Kurachi M, Shirasaka T, Yamane Y. Japanese clinical practice guidelines for aspiration and pharyngeal residual assessment during eating and swallowing for nursing care. *Japan Journal of Nursing Science*. 2022:e12496.
8. Takahashi T, Kitamura A, Matsumoto M, Higashimura S, Nakagami G, Sanada H. Introduction of Augmented Reality to the Remote Nursing Consultation System for Wound Care. *Journal of Wound Care*. 2022. (in press)
9. Nagaoka S, Ichikawa N, Kunie K, Takemura Y & Kida R. Factors related to person-environment fit in nurses who have changed workplaces: A cross-sectional study. *Journal of Society of Nursing Practice*. (in press)
10. Takemura Y, Inoue M, Ichikawa N, Kida R, Koyanagi H, Ikezaki S, and Ikeda M. Key Strategies for Managing Nursing Care under the COVID-19 Pandemic: A Multiple Case Study of Nursing Directors. *Journal of Nursing Management*. 2022. 30(8).
11. Inoue M, Kunie K, Takemura Y. Relationship between perceived workplace reflection support and person-environment fit among hospital nurses: A cross-sectional study. *Journal of Society of Nursing Practice*. (in press)
12. Kunimitsu M, Nakagami G, Kitamura A, Minematsu T, Koudounas S, Ogai K, Sugama J, Takada C, Yeo S, & Sanada H. Relationship between healing status and microbial dissimilarity in wound and peri-wound skin in pressure injuries. *Journal of Tissue Viability*. 2023; 32(1): 144-150.
13. Takizawa C, Minematsu T, Nakagami G, Kitamura A, Koudounas S, Kunimitsu M, Sanada H. Expression levels of NPPB, ITGB6, CPNE4, EML5, and ITSN1 in fresh exudates swabbed from critically colonized and infected full-thickness wounds in rats. *International Wound Journal*. 2022.

14. The Fact-finding Committee of the Japanese Society of Pressure Ulcers, Konya C, Takeuchi Y, Nakagami G, Kitamura A, Morita K, Ishizawa M, Abe Y, Higuchi H, Mizuki T, Motegi S, Shoji S, Shimada K, Tanaka K, Kawakami S, & Sanada H. Nationwide time-series surveys of pressure ulcer prevalence in Japan. *Journal of Wound Care*. 2022;31(Sup12):S40-S47.
15. 須釜淳子, 石橋みゆき, 大田えりか, 鎌倉やよい, 才藤栄一, 真田弘美, 中山健夫, 野村岳志, 山田雅子, 仲上豪二郎, 佐藤直子, 柴田斉子, 長谷剛志, 深田順子, 三鬼達人, 有田弥棋子, 浦井珠恵, 大川洋平, 北村言, 臺美佐子, 高橋聡明, 玉井奈緒, 飛田伊都子, 野口博史, 松本勝, 三浦由佳, 向井加奈恵, 麦田裕子, 吉田美香子, 倉智雅子, 白坂誉子, 山根由起子. 摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン. *日本看護科学会誌*. 2022; 42:790-810.
16. Saiki M, Takemura Y, Kunie K. Relationship between unit-level nurses' expectations from nursing assistant roles and individual nursing assistants' information-sharing behaviors: A multilevel mediation analysis. *Asian Nursing Research*. 2023. 17(1)
17. Kida R, Yumoto Y & Ogata Y. Workplace social capital mediates the relationship between authentic leadership and three dimensions of organizational commitment of hospital nurses: a cross-sectional study. *Japan Journal of Nursing Science*. 2023. e12526.
18. Kida R, Suzuki R, Fujitani K, Ichikawa K & Matsushita H. Interprofessional team collaboration as a mediator between workplace social capital and patient-safety climate: a cross-sectional study. *Quality Management in Health Care*. 2023. (in press)
19. Funakoshi C, Kunie K, Takemura Y, Takehara K, & Ichikawa N. Nurse Managers' Support During Organizational Change and Nurses' Organizational Commitment: A Cross-Sectional Study using Nurses' Career Stage. *Journal of International Nursing Research*. 2023. (in press)

総説・報告

1. 武村雪絵. 3-1. 新興感染症流行時の看護組織マネジメントのポイント. *看護 2022 年 3 月臨時増刊号*, 2022; 74(4): 124-130.
2. 船越千佳. 3-3. 病棟再編における看護管理者の役割. *看護 2022 年 3 月臨時増刊号*, 2022; 74(4): 138-142.
3. 北村言. 第 1 特集 急性期褥瘡のアセスメントとケア—慢性化・重症化を防ぐために— Part3 急性期褥瘡のアセスメントのコツ ①「深部損傷褥瘡 (DTI) 疑い」をどう評価するか?. *看護技術*, 2022; 68(8):743-747.
4. 木田亮平. 健康保持・離職防止につながる労働時間と勤務環境の改善「看護職の労働時間・勤務環境の改善に向けた調査研究」より. *看護 2022 年 11 月臨時増刊号*, 2022; 74(14); 29-36.

学会発表

1. 松本勝, 高橋聡明, 北村言, 保坂朋美, 渡辺久美, 津田桃子, 紺屋千津子, 真田弘美. 訪問看護師に対する遠隔エコーコンサルテーションにおける AR 技術の活用による手技伝達方法の考案. 第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会学抄録集. 2022; 50. (第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 5 月 20 日)
2. Takizawa Chihiro, Minematsu Takeo, Nakagami Gojiro, Kitamura Aya, Koudounas Sofoklis, Kunimitsu Mao, Sanada Hiromi. Development of mRNA markers of wound infection in fresh exudate of rat full-thickness wounds. *The 31st Japanese Society of Wound, Ostomy &*

Continence Management abstract book. 2022; 6. (The 31st Japanese Society of Wound, Ostomy & Continence Management, 20th May)

3. 滝沢知大, 峰松健夫, 仲上豪二郎, 北村言, 國光真生, 真田弘美. 高齢者の褥瘡管理におけるドレッシング交換及び創部洗浄の頻度の治癒遅延への影響 ラットクリティカルコロナイゼーション創モデルの作成. 日本老年看護学会第 27 回学術集会抄録集. 2022;137 (第 27 回日本老年看護学会, 6月 25 日).
4. 安藤有瑠聡, 仲上 豪二郎, 北村 言, 真田 弘美. 訪問看護における褥瘡管理の意思決定支援システムのためのエキスパートの知識を取り入れたアルゴリズムと創傷治癒変化を予測する階層ベイズモデル. 第 26 回日本医療情報学会春季学術大会プログラム・抄録集. 2022; 108-109. (第 26 回日本医療情報学会春季学術大会, 7月 2 日)
5. 澤田菜, 武村雪絵, 磯部環, 小柳礼恵, 木田亮平. 看護職の離職が組織に及ぼす影響の諸側面: 看護管理者を対象としたデルファイ研究. 2022. (第 26 回日本看護管理学会学術集会, 福岡, 8月 19 日・20 日)
6. 高橋好江, 武村雪絵, 市川奈央子. 「仕事・組織パーパス結合感」概念の提唱と病院看護職を対象とした測定尺度の開発. 2022. (第 26 回日本看護管理学会学術集会, 福岡, 8月 19 日・20 日)
7. 磯部環, 武村雪絵, 國江慶子. 職場移動における看護師のエンプロイアビリティ (雇用される能力) 一施設種別に見た各構成要素の相対重要度の特徴一. 2022. (第 26 回日本看護管理学会学術集会, 福岡, 8月 19 日・20 日)
8. 木田亮平, 武村雪絵. 全国の認定看護管理者配置状況と病棟の在宅復帰率との関連: オープンデータ解析. 2022. (第 26 回日本看護管理学会学術集会, 福岡, 8月 19 日・20 日)
9. 井上真帆, 武村雪絵, 磯部環, 須田佳子. COVID-19 患者に看護を提供した看護師が経験した看護師継続のプロセス: 複線経路・等至性モデルを用いた分析. 2022. (第 26 回日本看護管理学会学術集会, 福岡, 8月 19 日・20 日)
10. 市川奈央子, 武村雪絵, 高橋好江, 森川みはる. 看護職のプロフェッショナルリズムを高める要因の探索ー半構造化面接を用いた質的研究ー. 2022. (第 26 回日本看護管理学会学術集会, 福岡, 8月 19 日・20 日)
11. 石井馨子, 市川奈央子, 武村雪絵. 科学的根拠に基づく実践の継続に向けた集団の組織学習活動尺度の開発と信頼性・妥当性の検証. 2022 (第 60 回日本医療・病院管理学会学術総会, オンライン, 9月 16 日・17 日・18 日) 【優秀演題賞】
12. 三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 北村言, 村山陵子, 阿部麻里, 高橋聡明, 麦田裕子, 永田みさ子, 小路和幸, 仲上豪二郎, 須釜淳子, 紺家千津子, 真田弘美. エコーを用いた排泄ケア実装の促進要因と阻害要因. 2022. (第 10 回看護理工学会, 東京, 10月 15 日・16 日)
13. 高橋聡明, 仲上豪二郎, 松本勝, 北村言, 麦田裕子, 東村志保, 真田弘美. 複合現実技術を用いた医療技術シミュレーションの評価・筋肉注射シミュレータの試用-. 2022. (第 10 回看護理工学会, 東京, 10月 15 日・16 日)
14. Ishii K, Takemura Y, Kida R, Ichikawa N. Mediating effects of nurses' and group's internalization of EBP on the relationship between group organization learning activity and continuation of EBP by nurses: A cross-sectional study applying organizational learning model. 15th Annual Conference on the Science of Dissemination and Implementation in Health. 11-14, Dec. 2022. Washington, DC. U.S.A.
15. 三浦由佳, 森田光治良, 仲上豪二郎, 北村言, 須釜淳子, 真田弘美. 特定行為研修修了者の専門性が褥瘡治癒促進に及ぼす効果. 2022. (第 52 回日本創傷治癒学会, 名古屋, 11月 19 日)
16. 滝沢知大, 秦齊, 幅大二郎, 佐々木早苗, 河崎明子, 三宅知美, 大場純, 北村言, 阿部麻里, 仲上豪二郎. 褥瘡の滲出液中における細胞老化および SASP 関連遺伝子の発現量の関連. 2022 (第 52 回日本創傷治癒学会, 名古屋, 11月 19 日)

17. 高橋 聡明, 東村 志保, 寶萊 哲彦, 阿部 智子, 北村 言, 松本 勝, 仲上 豪二郎, 真田 弘美. 訪問系サービス利用者におけるコミュニケーションロボットの長期間活用 -バイタルサイン測定機器連動システムの開発-. 2022. (第 42 回日本看護科学学会学術集会, 広島, 12 月 4 日)
18. Shimada S, Takahashi T, Kitamura A, Matsumoto M, Mugita Y, Nakagami G, Sanada H. Assessing the reliability of the video-based objective evaluation checklist for skill of pressure injury care provided in home healthcare setting. 2023. (The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo, Japan, 10th-11th Mar)

研究助成など

研究助成)

1. 磯部環 (研究代表者). 職場移動における看護師のエンプロイアビリティ: 看護師の認識に関する調査. 令和 3 (2021) 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究活動スタート支援. 令和 3 年度~令和 4 年度.
2. 市川奈央子 (研究代表者). 後期キャリア看護職のプロフェッショナルリズム向上とキャリア継続の支援策構築. 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 若手研究. 令和 3 年度~令和 5 年度.
3. 木田亮平 (研究代表者). 専門的教育を受けた看護管理者の配置と患者アウトカムとの関連の検証. 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 若手研究. 令和 4 年度~令和 6 年度.
4. 石井馨子 (研究代表者). 看護師の根拠に基づく実践の継続のための組織学習活動促進プログラム構築の基礎研究. 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究活動スタート支援. 令和 4 年度~令和 5 年度.
5. 高橋好江 (研究代表者). 看護職の「仕事 - 組織パーパス結合感」の関連要因の検証. 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究活動スタート支援. 令和 4 年度~令和 5 年度.
6. 井上真帆 (研究代表者). 流行初期に COVID-19 患者対応に従事した病院看護職の中期的な経験プロセスの解明: 職業継続の鍵要因の探索. 一般社団法人日本看護管理学会研究助成金. 令和 4 年 1 月~令和 5 年 10 月.

奨学金・奨励金)

教室の出来事

2022年4月1日 新年度が始まりました

教職員4名、特任研究員2名、大学院博士課程1名、教室事務員1名の計8名で新年度をスタートしました。

2023年1月13日 博士論文を提出しました

博士課程3年の院生4名が博士論文を提出しました。

2023年2月15日 博士論文審査会を終えました

博士課程3年の院生1名が博士学位論文審査会を終えました。

2023年3月23日 卒業式・学位授与式が行われました

3月23日に大学院の学位記授与式が行われました。当教室所属の博士3年1名の門出を祝いました。

2022年3月25日 感謝の会を行いました

2023年3月25日に感謝の会を開きました。長年当研究室を守ってくださった事務員さんのご退職、ご栄転される先生や修了する院生の旅立ちを祝いつつ、互いに感謝を伝えあいました。

2022年3月31日 教員1名、特任研究員1名、教室事務員1名が退任しました。